

筆の取扱いについて

このたびは、一休園の製品をお買上げいただき、誠にありがとうございました。
皆様に楽しく書作していただくために、お買上げいただいた筆を永く良い状態でお使いいただくことができるように、このしおりを参考に取り扱い、お手入れなどしていただければ幸いです。

正しい使い方で筆との末永いおつきあいをお願いいたします。

【筆のさばき方】

- 1) 柔らかい羊毛筆は根元まで全部おろします。
 - ・糊固めしてあった筆は水で洗って、糊の粘りを取り去ってから墨を含ませると滑らかに書くことができます。
- 2) 剛い毛の太筆は全体の 2/3 までおろして使います。
- 3) 細筆は 1/3 から半分までおろして使います。
 - <ご注意> 硯の上でゴツゴツと穂先をくだかないでください。
筆の先端を歯で軽く噛んで柔らかくもみほぐしてから墨をつけるとうまくいきます。

【筆のしまい方】

- 1) 根元までさばいた筆は根元をしっかりと水で洗って、墨をなるべく残さないようにしてから水を切り、形を整えて筆架などにつり下げ、完全に乾いてからしまいます。

- 2) 途中までさばいた筆は布か紙で墨液をしぼりってから水をつけた紙などで墨を拭き取るか、使った所まで水を含ませて布か紙で拭き取り、形を整えて乾かしてからしめます。
- 3) 細筆は布か紙で墨を拭き取って、形を整えてからしめます。
 - ・ 細筆を水で洗って糊がとれてしまうと形が崩れて使いにくくなりますので、弊社ではお勧めしておりません。

【ご注意】

- ① 液体墨をお使いになった後は、墨液が残らないように良く洗うことをお勧めいたします。特に細光鋒や宿浄陳羊毫などの高級羊毛筆の場合は、大切な毛のキューティクルに化学成分が残って毛に悪い影響が出る場合がありますので、筆の根元に残った墨液をていねいに洗い落としてください。
- ② 筆を洗うときには水で洗ってください。洗剤やシャンプーなどは毛を痛めることがありますのでご使用にならないでください。
- ③ 『太筆の毛先が割れて困る』というお問い合わせの原因にはいろいろな場合がありますが、軸と穂首の付け根の部分に墨がたまって固まっていることが多いものです。筆をご使用になった後は時間をかけて、毛の根元の墨液を完全に洗い落としてから形を整え、筆架などに吊り下げて直射日光の当たらない場所でしっかり乾かしてください。

【お願い】

筆の製作には十分注意して作業しておりますが、万一不具合な点がございましたら、お手数ですがお買い求めになられたお店にお持ちいただくか、直接弊社にご連絡いただきますようお願い申し上げます。

日本の筆で世界に書き

伝統的工芸品熊野筆生産者

株式会社 

本社・工場 〒731-4221 広島県安芸郡熊野町出来庭 2 丁目 2-44

TEL082-854-0019 FAX082-854-5222

大阪営業所 〒580-0014 大阪府松原市岡 6 丁目 5-50

TEL072-335-0605 FAX072-335-9313

東京営業所 〒224-0003 横浜市都筑区中川中央 1-21-1-203

TEL045-507-6319 FAX045-507-6316